

◆特集 利用者のニーズに沿った支援を行う◆

事例報告(1)

利用指導の実際

小林 美香子・岡田 教代

要旨：当院では、教育的機能を目的とした図書室運営を行っている。そこで、2007年4月から2008年7月にかけて実施した利用指導の実際を報告する。利用指導はオリエンテーション、文献検索指導、電子ジャーナル利用説明会に大別される。オリエンテーションの対象は、新入職員・研修医・実習生らであり合計35回実施した。文献検索指導については、2007年度は看護職を対象に、2008年度は新たな対象としてメディカルアシスタントを加え、合計19回実施した。電子ジャーナル利用説明会は医師を対象に1回実施した。今後は、地域医療支援病院としての役割を果たすために積極的に情報発信し、教育機能を持つ図書室の充実に努めたいと考える。

Key words：利用指導

I. はじめに

2006年4月、山田赤十字看護専門学校の閉校に伴い、山田赤十字病院内に研修センターが新設された。これにより図書室については事務部企画課から研修センターに業務が移行され、教育的機能を目的とした図書室運営を行っている。

図書館利用教育ガイドライン合冊版¹⁾によると、「図書館利用教育とは、すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育である」と定義づけられている。また、利用教育の目的・目標として、領域1から5までの段階が設定され、それぞれに応じた指導方法が示されている。

当院図書室の利用者は、職員・実習中の学

生・地域医療機関の関係者であり、多様な職種、様々なレベルにある人を対象とする。そこで、今回は2007年4月から2008年7月にかけて実施した利用指導の実際を報告する。

表1 利用指導実績(2007年4月～2008年7月)

| 方法 | 対 象 | 開催月 | 2007.4～2008.3 | 2008.4～2008.7 |
|----------------|---------------------|-------|---------------|---------------|
| | | | 回数(のべ人数) | |
| 1 オリエンテーション | 新入職員 | 4月 | 1 (50) | 1 (70) |
| | 研修医 | | 1 (70) | 1 (10) |
| | 実習生・教員 | 実習初日等 | 22 (267) | 6 (23) |
| | 地域医療従事者 | 随時 | 6 (23) | 0 (0) |
| 2 文献検索指導 | 新人看護師 | 4月 | — | 5 (50) |
| | MA (メディカルアシスタント) | 7月 | — | 1 (8) |
| | 地域医療従事者 | 随時 | 1 (2) | 0 (0) |
| | 看護師 | | 0 (0) | 3 (3) |
| 3 説明会 | 医 師 | 4月 | — | 1 (20) |

Kobayashi Mikako

山田赤十字病院 研修センター

kenshu@yamada.jrc.or.jp

II. 利用指導実績

利用指導は、オリエンテーション、文献検索指導、電子ジャーナル利用説明会に大別される(表1)。

1. オリエンテーション

新入職員、研修医、実習生・教員、地域医療従事者に対し、2007年度は27回(のべ330人)、2008年4月～7月にかけて8回(のべ103人)実施した。

2. 文献検索指導

2007年度は新人を除く看護師および地域の看護職を対象に10回(のべ11人)実施した。2008年4月以降は、新たな対象として新人看護師、メディカルアシスタント(医師事務作業補助者)を加え実施している。

3. 電子ジャーナル利用説明会

2008年1月から参加している「赤十字コンソーシアム」商品についての利用説明会(1社)を2008年4月の医局会開催時に実施した。

III. 利用指導の具体例

2008年4月～7月にかけて実施したオリエンテーションおよび文献検索指導の現状を報告する。

1. オリエンテーション

(1) 「新入職員」

対象者数：約70名(研修医を除く)

日時：2008年
4月4日(金)
9:10～9:40

場所：講堂

担当者：研修係長、
図書主事

入職時研修プログラムの内容として位置づけ、「図書室利用案内」(図1)にそって説明



図1 図書室利用案内

をした。その際、Webを閲覧しながら「赤十字電子医学図書館ポータルサイト」を紹介し、赤十字コンソーシアム参加商品の説明も行った。他に「日赤サービス」²⁾の紹介を行い、赤十字施設で働く職員として学び続けられる環境があることを紹介した。

(2) オリエンテーション「研修医」

対象者数：初期6名、後期4名

日時：2008年4月1日(火)16:10～17:10

場所：図書室

担当者：図書委員長、研修係長、図書主事
上記1同様に入職時研修プログラムの内容として位置づけている。研修医向けの「図書室利用案内」(図2)にそって説明を行った。

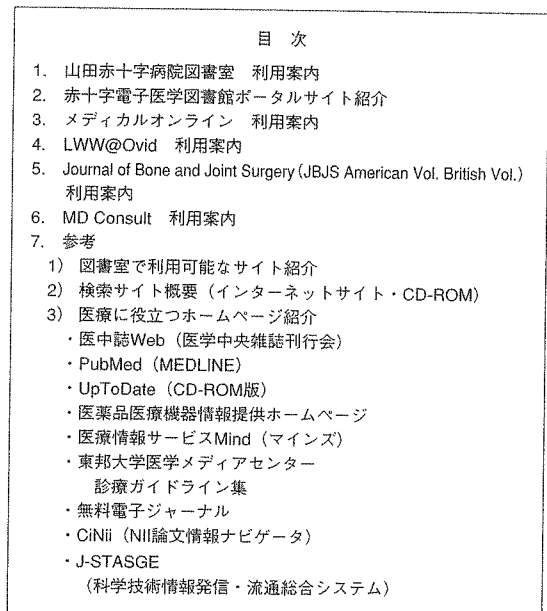


図2 研修医向け「図書室利用案内」

研修医の利用頻度が高い「UpToDate」(CD-ROM版)の利用可能なPCを紹介するなど、臨床研修指定病院として教育環境が整備されていること、ならびに図書に関する整備の要望があれば対応可能であることを説明した。

(3) オリエンテーション「実習生・教員」

対象となる実習生の職種は看護学生、医学

生、薬学生だけでなく、研修生へと広がりがつある（表2）。

表2 オリエンテーション「実習生・教員」

| | 多人数 | 少人数 (実習グループ単位) |
|-----|------------------------------|----------------------------------|
| 職 種 | 看護学生 | 看護学生・薬学生・医学生 |
| 開催日 | 実習説明会開催時 (プログラムに組み込まれている) | 主に実習開始初日 (実習担当責任者から随時、依頼を受ける) |
| 場 所 | 講 堂 | 図書室 |
| 担当者 | 研修係長、図書主事 | |
| 内 容 | リーフレット「図書室利用案内」(図1)にそって説明 | 左記に追加し、実習関連分野の書籍配架場所へ案内 |

看護学生・薬学生については、実習期間の長さにもよるが、実習オリエンテーションのプログラムに含まれている。医学生については、プログラム化はされていないが、指導医が図書室まで医学生を案内する科もある。今後、医学生についても看護学生・薬学生同様に図書室オリエンテーションをプログラム化し、専門職としての学びを支援する環境が整備されていることを広報したい。

2. 文献検索指導

(1) 新人看護師

対象者数：新人看護師など50名

日 時：2008年4月21日(月)13:30~16:30

2008年4月24日(木)12:30~14:30

場 所：図書室

担当者：研修係長、図書主事

方 法：1グループ10名単位を1時間かけて実施

日本赤十字社事務局看護部の方針を受け、当院でも「キャリア開発ラダー」を導入している。臨床看護実践、マネジメント、教育・研究、赤十字活動の4領域があり、「赤十字の看護師の看護実践能力の指標」として、それぞれレベルI~Vまでの5段階が示されて

いる³⁾。特に教育・研究の領域については、情報収集を行うことにより到達可能であると考えられるため、「文献検索方法と図書室の利用」についての学習機会を設定した。

自立して文献検索できることを目的に、少人数制の体験型学習とし、医中誌Web、日本看護協会ホームページの各コンテンツの利用体験をした。また、医療に役立つサイト紹介の例として医薬品医療機器情報提供ホームページ⁴⁾を用い、各自が薬剤添付文書の入手を体験した(表3)。

表3 文献検索指導「新人看護師」

| | PC NO1 担当：研修係長 | PC NO2 担当：図書主事 |
|----------------|---|-----------------------|
| 20分間 (10名) | 講義 研修係長「文献検索と図書室の利用方法について」 | |
| 20分間 (5名ずつ) | Aグループ： ①日本看護協会ホームページ各コンテンツ紹介 ②医薬品医療機器情報提供ホームページ ⁴⁾ の利用体験 | Bグループ： 医中誌Webの利用体験 |
| 20分間 (5名ずつ) | Bグループ： ①日本看護協会ホームページ各コンテンツ紹介 ②医薬品医療機器情報提供ホームページ ⁴⁾ の利用体験 | Aグループ： 医中誌Webの利用体験 |

担当者2人制をとり、同じ内容を5回繰り返し行うことになったが、受講者からは満足度の高い評価を得ることができた。

(2) メディカルアシスタント

対象者数：メディカルアシスタント8名

日 時：2008年7月8日(火)13:30~15:00

場 所：図書室

担当者：研修係長、図書主事

当院ではメディカルアシスタントを「院内計画に基づき、病院医師の事務作業負担の軽減を目的とし、医師の指示により、事務作業を補助する専従者」と定義づけ、独自の研修プログラムを立案、養成を行っている。研修目的は「医師の事務補助ができるために必要な基礎知識を修得し、適切な補助業務ができるためのコンピテンシーを育成する」ことで

あり、研修プログラムの中に「図書室の利用と文献検索」を組み入れた。

今回の研修を受講しているメディカルアシスタントは、当院の看護助手の経験者であるが、初めて図書室を訪れた者がほとんどであり、図書室を身近な存在として捉える貴重な機会となった。具体的には、メディカルアシスタント向け「図書室の利用と文献検索」(図3)にそって説明を行い、その後に医中誌Webの利用体験をした。その際、配属科に関連する疾患や、担当医師が行っている研究業績を調べるなどした。

| 目次 | |
|----|--------------------------------|
| + | 山田赤十字病院図書室 概要 |
| + | 山田赤十字病院図書室 利用案内 |
| ◎ | 医療に役立つサイト紹介◎ |
| ※ | 赤十字電子医学図書館 (山田赤十字病院ポータルサイト) |
| ※ | 図書室で利用できるインターネットサイト紹介 |
| ◆ | 文献検索 ◆ |
| ※ | 医中誌Web (医学中央雑誌刊行会) |
| ※ | PubMed |
| ※ | メディカルオンライン |
| ※ | Cinii (NIH論文情報ナビゲータ) |
| ※ | J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) |
| ※ | 厚生労働科学研究成果データベース |
| ◆ | 病 気 ◆ |
| ※ | メルクマニュアル (オンライン版) |
| ※ | 医療情報サービス Minds (マインズ) |
| ※ | 東邦大学医学メディアセンター 診療ガイドライン集 |
| ※ | 国立がんセンター がん情報サービス |
| ◆ | 薬 ◆ |
| ※ | 医薬品医療機器情報提供ホームページ |
| ※ | 日本ジェネリック医薬品学会 |
| ◆ | 参 考 ◆ |
| ※ | 医療事故情報センター |
| ※ | 広域災害救急医療情報システム (EMIS) |

図3 メディカルアシスタント向け
「図書室の利用と文献検索」

IV. まとめ

当図書室は事務部企画課から研修センターに業務が移行された際、管理部門から物理的に離れた場所に移動した。そのため、図書室へのアクセスの不便さが問題となり、図書室担当者には「利用される図書室」にするための工夫が求められた。病院の移転新築を前に、

ハード面の改善は限界があるので、ソフト面でいかにカバーできるかを考えた結果、オリエンテーションや文献検索指導を行うことにより利用者の拡大が図れることに気づいた。

幸いにも、当図書室は研修係長と図書主事の2名体制で利用指導ができるため、同時進行の少人数制教育にも対応できる。また、実習生に対するオリエンテーションについても、それぞれの業務を調整しながら実施できる。

ただし、電子ジャーナル(洋雑誌)契約後の利用指導については、代理店に利用説明を依頼しているのが現状である。

今後は、地域医療支援病院としての役割を果たすために地域の医療従事者に対しても積極的に情報発信をし、教育機能を持った図書室の充実に努めたいと考えている。

参考文献

- 1) 日本図書館協会図書館利用教育委員会編. 図書館利用教育ガイドライン合冊版. 東京: 日本図書館協会; 2001. p13-17
- 2) 日赤サービス. [引用 2008.10.06]. <http://nisseki-service.com/>
- 3) 日本赤十字社事業局看護部編. 看護実践能力向上のためのキャリア開発ラダー導入の実際. 東京. 日本看護協会出版会. 2008
- 4) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構. 医薬品医療機器情報提供ホームページ. [引用 2008.10.06]. <http://www.info.pmda.go.jp/>